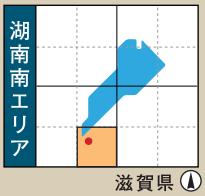
史跡

国指定

近江国庁跡附惣山遺跡・青江遺跡

（おうみこくちょうあとつけたりそうやまいせき　あおえいせき）

大津市大江六丁目ほか　昭和48年3月15日指定



瀬田川（勢多川）左岸の大津市瀬田地域は、古代近江の政治経済の中心であった近江国府の置かれた場所で、その中心が近江国庁です。近年の調査により見え始めた、近江国府を構成する様々な施設の構成は、古代の大国近江の実力を私たちに教えてくれます。

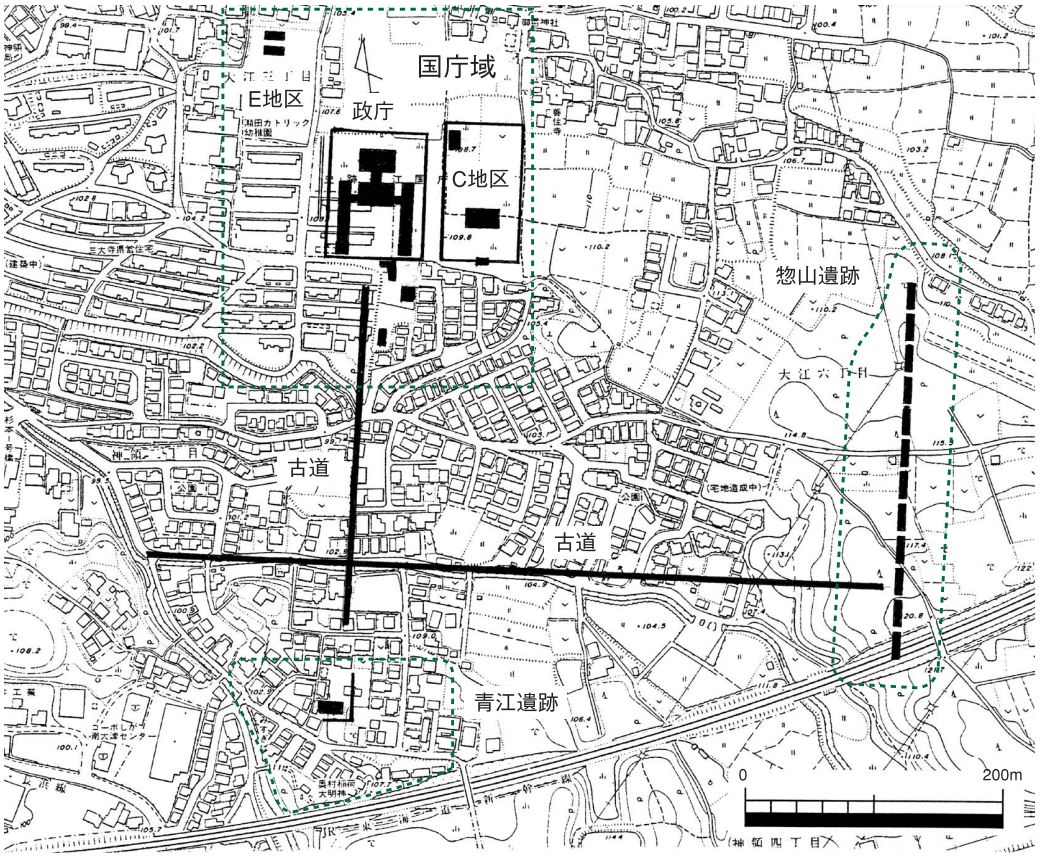
当時のできごと	
729年	長屋王の変勃発
740年	藤原広嗣の乱勃発
764年	藤原仲麻呂の乱勃発

近江国庁について

国庁とは、古代律令国家（広く考えると大化改新のあった645年から平安末期の1192年までを指します）において、国・郡・里の行政単位で行われた地方行政機関のうち、国の行政の中心的な役割を果たした役所をいいます。古代の国は大・上・中・下の4等級に分かれていましたが、近江は13カ国あった大国の一つです。近江国庁と、これに関連する官衙が建ち並ぶ近江国府は、近江国の政治、経済の中心であり、近江国庁では、国司以下500名程度の役人が執務していたと考えられます。国司の長官である守（かみ）には、藤原武智麻呂（霊亀2年〈716〉任）、藤原仲麻呂（天平17年〈745〉任）、藤原種継（天応元年〈781〉任）など、古代の著名な政治家が名を連ねています。特に藤原仲麻呂は、一国の宰相として、天皇にも匹敵する権勢を誇りながら、終生、近江国司の座を手放そうとはしませんでした。これは、豊かな国、近江を支配することによって得られる、莫大な財力のためだったと考えられます。



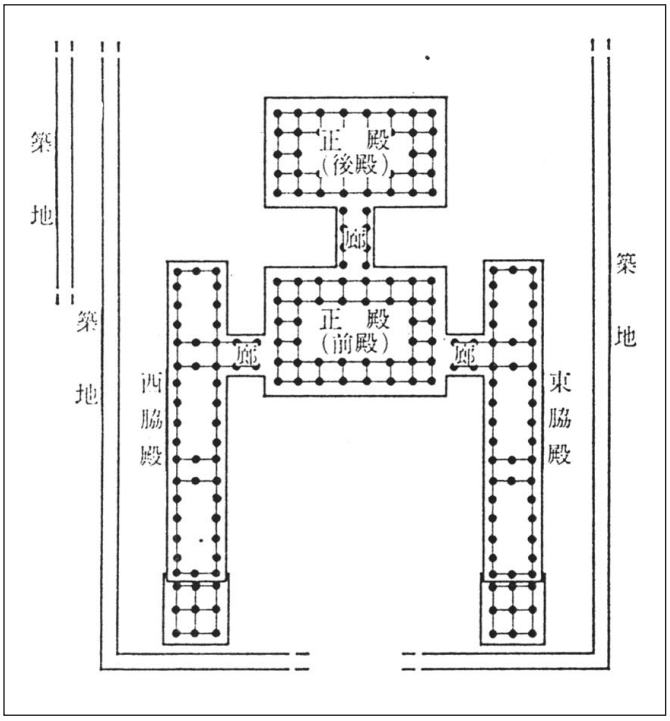
政庁　飛雲文鬼瓦



近江国庁関連遺跡群



政庁　瓦積基壇



政庁　平面図

政庁北西区画の施設

近江国庁には、政庁のある区画の東西にそれぞれ築地塀で囲まれた区画があり、多くの施設が配置されていたことがわかってきました。このような形態をとる国庁の遺構は全国でもまれであり、古代近江の国力の高さを物語っています。

このうち、政庁の北西の区画からは、大規模な工事により、谷を埋めた造成地が確認され、ここから施設を区画する柵の跡や、曹司（様々な役所）として使われた掘立柱建物の跡などが見つかっています。後世の削平のため遺構としては残ってはいませんが、大量の瓦が出土することから、この区画の中心には基壇の上に建つ、瓦葺きの建物があった可能性が考えられます。

また、鉄製品を生産した鍛冶工房の跡も見つかっており、ここで、建物を整備するのに必要な釘、あるいは武器などを造っていたのではないかと考えられます。

近江国庁政庁

国庁のうち、国司が政務を執る場所を政庁といいます。近江国庁の政庁は、瓦積基壇の上に建つ4棟の壮大な瓦葺きの建物で構成されます。東西に長い前殿と後殿を南北に配置し、その東西に南北に細長い脇殿を配します。この構成は、平城宮や平安宮といった、都城の中枢部の構造に倣ったものです。現在確認されている政庁の建物は、8世紀中頃に建てられ、8世紀の終わり頃に大規模な修復が行われ、10世紀の末には廃絶したと考えられます。

政庁の屋根は、飛雲文と呼ばれる、雲をモチーフとした伸びやかなデザインの瓦で飾られていました。

なお、調査はされていませんが、瓦積基壇の下には、掘立柱建物からなる、7世紀代の政庁の遺構が存在する可能性があります。



北西区画　大型掘立柱建物



北西区画柵



東区画　木製外装基壇（白線で四角に囲まれたところ）

政庁東区画

発掘調査の結果、近江国庁には、政庁の東にも築地塀で囲まれた区画があることがわかりました。築地塀の基礎は瓦積基壇で、南端に小型の門があります。この区画の中心には東西が約24m、南北が約13.3mの規模の木製外装基壇（板で外面を化粧した基壇）が見つかりました。基壇の前面（南）には施設が一切なく、広い広場となっていたようです。また、基壇の周辺から、多数の玉砂利が見つかっていることから、広場には、玉砂利が敷き詰められていた可能性があります。この基壇の東と北には、基壇建物の目隠しのように柵が配され、さらにその北には掘立柱建物群が配されています。この掘立柱建物群は、近くから「厨」と書かれた墨書土器とともに、比較的多くの、料理に使う土器類が出土していることから、木製外装基壇の建物で行われる行事に奉仕する施設と考えられます。



木製外装基壇（四角がコーナーの角材、中央のベルトが板の跡）

木製外装基壇の構造

基壇の周囲に細長い溝を掘り、この溝の中に、厚さが5cm程度の板を縦に差し込み並べて、基壇の土を押さえます。基壇の四隅には角材を打ち込んでいたようです。これまで、木製外装基壇は岩手県平泉の毛通寺跡を始め、数例が知られていますが、いずれも寺院の建物に用いられており、官衙での使用例は今のところ近江国庁以外では確認されていません。



築地塀の瓦積基壇

惣山遺跡

惣山遺跡は政庁の南東約500ｍの丘陵上にあり、勢多橋から堂ノ上遺跡（学習シートNo.013）を経て東西にのびる官道の突き当たりにあります。瓦が多量に散布することから、古くは、近江国分尼寺の遺跡と考えられていましたが、発掘調査の結果、寺院の跡ではなく、南北7間(約21m）、東西4間（6m）の瓦葺総柱建物を12棟南北に配列した、これまで類例のない建物群が発見されました。建物群の延長は、約300ｍにも及びます。出土した瓦は国庁と同じ飛雲文の瓦です。通常、総柱の建物は倉庫として用いられ、かつ、国庁と同じ飛雲文の瓦が出土していることから、この建物群は、近江国庁に付随する倉庫群と考えられます。また、出土した土器の年代から、この倉庫群は、近江国庁の主要部分と同様、10世紀後半頃まで存続していたようです。

さて、この倉庫群に何が納められていたかについては、興味が尽きない疑問ですが、残念ながら現段階ではわかりません。ただ、一番北端の倉庫は、わざわざ尾根の先端に土砂を盛り付け、基礎を造成し、しかも政庁の中門の位置に合わせて建てられていることがわかりました。どうしても12棟の倉庫を建てる必要があったようです。古代近江には12の郡がありました。この数の一致が惣山遺跡の謎を解く鍵になるかも知れません。

通常、倉庫は火災を避けるため、倉庫と倉庫の間を広くあけ、さらに防御のため、柵や塀を巡らしますが、惣山遺跡の倉庫群からはそのような施設は見つかりませんでした。これらのことから考えると、この倉庫群は、人に見せることを意識した視覚性に重点を置いた建物群だったようです。官道の正面に一列に並ぶ大倉庫群は、視覚的効果が抜群だったことでしょう。この倉庫群を往時の人達が、驚きのまなざしで見たことは間違いありません。



惣山遺跡　柱穴と瓦



惣山遺跡と国庁



惣山遺跡　礎石の抜取穴

青江遺跡

青江遺跡は、 政庁から谷を挟んで南に約350m離れた丘陵上に位置します。発掘調査の結果、国庁の建物群と同じ方位の築地塀で囲まれた区画が2ヶ所見つかりました。東の区画内は未調査ですが、西の区画の中からは、掘立柱建物から礎石建物へ建替えられた、大型の建物跡が発見されました。出土した瓦は、国庁と同じ飛雲文の瓦であり、土器も同時期のものであることから、国庁と一体の施設と考えられます。遺跡の性格としては、出土した土器に多数の食器類が含まれていることから、日常の生活空間であったことがうかがわれ、建物の規模から考えると、近江国庁の国司のような、高官の宿舎である可能性が高いと考えられます。

また、見つかった2カ所の築地塀の間は通路と考えられ、その幅は約24mあります。この通路は国庁南門に向かって真っ直ぐに延びていた可能性があります。そうであれば、実に堂々たる道であり、惣山遺跡の倉庫群と同様、ここにも見る人を圧倒する景観があったと考えられます。



青江遺跡全景



青江遺跡　土色の異なる部分が建物柱や、雨落ちの溝



近江国府礎石列



近江国府瓦の出土状況



近江国府鬼面鬼瓦

近江国府の調査

一般に、律令制のもとで国司が政務を執る官庁を「国庁」というのに対し、国庁の周辺に計画的に配された都市を「国府」という用語例が多いようです。ここで紹介した「惣山遺跡」「青江遺跡」も国府の中に含まれると考えることができます。

最近行われた国庁の周辺部（国府）の調査では、もともと複雑な地形であった地域を、大規模な工事により造成した痕跡が各所で見つかっており、近江国府の造営が、国家的な規模で行われた様子がうかがえます。また、他国の国府では例の少ない、瓦葺きの建物が多数あったことが、発掘調査により確認されており、近江国府の特殊性を示しています。

現段階では、国府域の調査はまだ本格的には行われていません。今後の調査により、大国近江の実像が明らかにされることが期待されます。

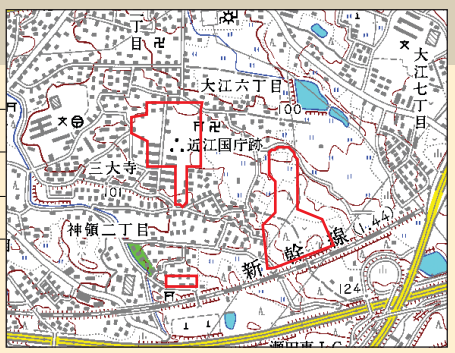
関連する文化財

堂ノ上遺跡（大津市）	学習シートNo.013
唐橋遺跡（大津市）	現在の唐橋の上流から発見された、7世紀代の勢多橋の遺構
岡遺跡（栗東市）	栗田郡衙の遺跡
禾津頓宮（大津市）	聖武天皇の頓宮の遺跡。膳所城下町遺跡と重複する
保良宮跡（大津市）	藤原仲麻呂が中心となって整備した宮。弓削道鏡事件の舞台
平城京跡（奈良県奈良市）	710年から787年までの間の都。あおによし奈良の都

もっと深く知りたい

大津市歴史博物館	☎077-521-2100	大津市御陵町2-2
大津市埋蔵文化財調査センター	☎077-527-1170	大津市滋賀里1-17-23
滋賀県埋蔵文化財センター	☎077-548-9681	大津市瀬田南大萱町1732-2
大津市教育委員会	☎077-528-2638	大津市御陵町3-1

近江国庁跡附惣山遺跡
青江遺跡へのアクセス　JR琵琶湖線　瀬田駅もしくは石山駅下車



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔20世紀近江発掘ベスト10展〕滋賀県教育委員会　〔大津の文化財〕大津市教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月